

## イザヤ書40章 27-31 節 「新たな力」

### 1A 見過ごされた訴え

### 2A 聞いて、知っている神

#### 1B 永遠

#### 2B 地の果てまでの創造

### 3A 疲れた者への活気

### 4A 主を待ち望む者

#### 1B 焦りによる弱さ

#### 2B 力を受けるための待ち望み

#### 3B 鷲のような力

## 本文

私たちが新年に注目したい御言葉は、有名なイザヤ書 40 章 27-31 節です。

27 ヤコブよ。なぜ言うのか。イスラエルよ。なぜ言い張るのか。「私の道は主に隠れ、私の正しい訴えは、私の神に見過ごしにされている。」と。28 あなたは知らないのか。聞いていないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造された方。疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。29 疲れた者には力を与え、精力のない者には活気をつける。30 若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。31 しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。

私たちは、新しい年に入って、新しい心で、新しい決意をもって、という引き締まった気持ちで前に進みたいと思います。けれども現実には、そうは行っていません。去年起こったことは、今年も繰り返し、今まで行っていたことをそのまま続けなければいけません。年が変わったからと言って、状況が変わるわけではありません。けれども、力は新たにされます。私たちの神は、ご自分を待ち望む者に新たな力を与えると約束してくださっています。

今、読んだ本文の背景をご説明したいと思います。私たちの教会で、ちょうど歴代誌第二を終えました。そして次の礼拝でエズラ記を学びます。歴代誌第二の最後、またエズラ記最初に出てくる、とても重要な人物がいます。ペルシヤの王クロスです。バビロンを倒したクロスは、自分の治世の第一年、王となった直後に、早々と勅令を出しました。ユダの民がエルサレムに帰り、そこでイスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ、という命令です。全くの異教徒であるクロスが、捕囚の民が信じている神の宮を建てよと命令すること、そしてその国庫を使って神殿のための資材を用意させていること、これは普通ならば決して考えられないことであり、まったく思いも呼ばない新しい事であり、主の霊が行われたことであります。

そして神は、ご自分が行われるこの新しい事を、クロスが生まれる百年ぐらい前から、前もって預言者イザヤを通して告げられた、というのが、イザヤ書 40 章以降の預言になります。クロス王がバビロンの圧政で苦しんでいるユダヤの民を解放することを、40 章から 48 章に至るまで告げています。主なる神は言われました。「わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。(46:10)』私たちの信じている方は、初めから、終わりのことを告げる神です。ですから、今年も、主がすでにお語りになった約束がその通りになる年になります。私たちには先の話でも、すでに神は将来と希望を与える、平和の計画を与える計画です。

### 1A 見過ごされた訴え

そして、いま読んだところは、バビロンの地にいるイスラエルの民が、自分たちの訴えが誰にも届けられていない、主なる神も聞いてくださらない、とつぶやいて、その疲れを感じていることに対する、神の慰めの言葉でした。イザヤの時代は、ヒゼキヤが王ですからまだバビロン捕囚になっていませんが、バビロンに捕え移されてから外国に住むという屈辱を受けている彼らが、呻いて、叫んでいるけれども、まるで天井に向かって祈っているような気分になっていました。

それで 27 節、「私の道は主に隠れ、私の正しい訴えは、私の神に見過ごしにされている。」とあるのです。いかがでしょうか、私たちが疲れを覚えるのは、肉体をたくさん動かしている時ではありません。たとえ肉体を動かしていても、自分が神の御心の中で動いていれば、後に出てきますが、走っていても疲れのないのです。けれども、自分が意図していない方向に物事が動いたり、自分では理解できないことが自分の身に起こったりすると、私たちの心に負荷がかかり、疲れてきます。その時の心はまさに、「私の道は主に隠れ、私の正しい訴えは、私の神に見過ごしにされている。」というものです。

### 2A 聞いて、知っている神

けれども主は問いかけられます。「あなたは知らないのか。聞いていないのか。」イザヤ書 40 章以降、この言葉を繰り返されます。すでに知っている神の知識です。けれども、私たちは、圧迫や負荷を受けているその過程で、神からいつの間にか目を離してしまっているからです。

### 1B 永遠

その神の真理は何か？「主は永遠の神、地の果てまで創造された方。」です。永遠は、時間という縦軸だとすれば、地の果てというのは横軸と言ってよいでしょうか？私たちは、「神はあの時まで私に心を留めてくださっていたが、あの時から私のことを忘れてしまった。」ということではできません。永遠の神ですから、どんな時にも神はいてくださいます。そして、「神は、あの地域では働いておられる。あの人々の間では働いておられる。」ということではできません。なぜなら、地の果てまで神は創造して下さったからです。

私は、個人的に二つの分野で元気が出ます。永遠についてですが、昔から神が働いておられることを知ることです。自然界の不思議のビデオを見て、天地創造の神の不思議を知って、感動する人もいるでしょう。私個人は、聖書時代の歴史を見て、その過去の遺跡を見て、確かに過去に主が働かれていて、同じ主が私たちに臨んでくださることを知り、感動します。今だけでなく、昔からおられる神です。そして、将来のことを調べるのも大好きです。それは聖書に預言として書かれています。イエス様が戻ってこられること、神の国がこの地上に建てられること。そして、地球がエデンの園のように回復すること。死もなく、苦しみもなく、病もなく、泣き叫びもない永遠の慰めが与えられること、これらのことを考えると元気がでます。永遠の神を見つめるのです。

## 2B 地の果てまでの創造

それだけでなく、地の果てにいたるまで創造された方のことを考えることも、私は元気になります。この日本の島だけ見るのではなく、実に、40章15節には、島々を細かい塵とみなしておられると主は言われます。そうではなく、飛行機に乗って何時間もかかるようなところでも、主が確かに生きておられることを知ることは励みになります。間もなく、アメリカに行ってきますが、それはアメリカを見に行くためではありません。世界を見に行くためです。イエス・キリストを伝えるために世界中に遣わされている宣教師たちが、どのようにして自分たちが神に仕えているその所で主が働かれているのか、その恵みを報告します。アフリカで働いておられる同じ神が、日本でも働いておられるのです。

## 3A 疲れた者への活気

そして、この神は、「**疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。**」とあります。その通りですね、この天地万物をご自分の言葉でお造りになるのですから、疲れ知らずです。そして、その創造にある英知は、測り知ることができません。そしてこの方が、疲れた者たちに力を与え、精力のない者には活気をつけます。

もう一度、なぜ私たちが弱くなってしまうのか、疲れて気力を落としてしまうのか考えたいと思います。一つは、自分の罪の問題があるでしょう。克服したい肉の欲望、抑えられない衝動、また、自分がどうしても、こういう時にはああ動いてしまうという、直したいと思っても、どうしても再び行ってしまうことがあるでしょう。また、自分で結審したことがあるのに、それを貫徹できなかった落胆もあることでしょう。特に元旦、今年はこれこれをしますという決意をします。2013年の元旦に行ったことで、自分はどれだけのことができたでしょうか？それがなかなか、できなかったとするとがっかりして、疲れます。さらに、問題が自分の能力の範囲を超えている時、圧倒されて疲れてしまいます。

## 4A 主を待ち望む者

そこで主が私たちに約束しておられるのは、「**待ち望むことによる力**」です。「**しかし、主を待ち望む者は新しく力を得る**」とあります。

## 1B 焦りによる弱さ

私たちの弱さは、待てないことです。何かをしなればいけないと思い、その必要に応えるべく動いていくことです。何かをしていないと気が済まないのです。このような動きをしていると、自分では一生懸命やっているつもりなのに、間違った方向に進んでしまっているの、頑張れば頑張るほど、悪い結果をもたらします。

私たちは、主を待ち望む必要があります。群衆がイエス様に、「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」と尋ねました。イエス様は、「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。(ヨハネ 6:29)」と言われました。イエス様を信じるということ、何か行動に移すのではなく、イエス様が何を行っておられるか観察することです。自分で早まって、これが神のわざだと決めつけるのではなく、イエス様に、「私はここにいます。あなたが命じることを行ないます。」と言って、御前に静まるのです。そうすれば、イエス様が命じてくださいます。そして、私たちはその命令に応答します。

## 2B 力を受けるための待ち望み

そして、私たちは神の導き、方向性を求めるためだけに主を待ち望むのではありません。主が行いなさいと命じられたことは、主がその命令を私たちが行うために力を与えてくださいます。私は、チャック・スミスが朝に三度の説教、夕方に説教、そして以前は水曜日も説教を用意し、それから日ごとにラジオ番組に出演するなど、高齢なのに精力的に働いていた彼を見て、「どこからそのエネルギーが出てくるのだろうか？」とっていました。私はまさに 30 節、「若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。」ではないのか、と思いました。

おそらく、彼は祈っていたのだと思います。力を欲しい時に、「主を、これこれのためにお願いします。」と祈っておられたのだと思います。主の御心を行っているのであれば、主は必ず新たな力を与えてくださいます。エズラ記を学び終えたら、ネヘミヤ記を学びますが、ネヘミヤはエルサレムの城壁の再建のため、激しい反対運動、また内部での破壊活動があったにも関わらず、短期間で城壁を完成させました。彼は、事あるごとに小さな祈り、短い祈りを捧げています。人の前で話している時でも心の中で祈っています。

私たちが力づけてくださる方を思いましよう。神は天地万物を造られた方です。「12 だれが、手のひらで水を量り、手の幅で天を推し量り、地のちりを枳に盛り、山をてんびんで量り、丘をはかりで量ったのか。13 だれが主の霊を推し量り、主の顧問として教えたのか。14 主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。15 見よ。国々は、手おけの一しずく、はかりの上のごみのようにみなされる。見よ。主は鳥々を細かいちりのように取り上げる。」

### 3B 鷺のような力

そして最後に、待ち望む者に与えられた新しい力によって、どのようになるのかを説明しているところを読みます。「鷺のように翼をかって上ることができる。」であります。小鳥ではなく、鷺であることに注目してください。小鳥の羽の動かし方と、鷺のそれとを比べてください。小鳥は自分の羽根を激しく、急いで動かすことで飛んでいます。鷺は、動かしません。風に乗る方法を知っているのです。

これが、主を待ち望む者の姿です。御霊の流れに乗って動くのです。これから祈りをふりしぼって、それで御霊の働きを引き起こすものではありません。すでに御霊の流れ、御霊の風はあるのです。ちょうど、電波のようにすでにあるのです。それに自分がいかに波長を合わせるのか、であります。それに乗る時には、私たちの真ん中で主の働きを見ることができます。どこかに行って、主の働きがありませんか？と願うのではなく、まさに私たちの間で主が働かれていること、生きていることを知りたいと思います。